

ISO/IEC JTC 1/SC 42 総会報告

報告日時：2018年5月22日（火）13:00～17:00

於：情報処理学会／情報規格調査会 技術委員会

報告者：SC 42 国内専門委員会 委員長 杉村領一

1. 総会開催場所：北京（中国） 北京新世紀日航飯店
2. 開催期間：2018年4月18（水） - 20日（金）
3. 参加国数/出席者数：
 - (ア) P-member 15ヶ国、O-member 2か国 / 約90名（登録88名）
 - (イ) P-member: カナダ、中国、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、インド、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本（4, 杉村領一[産総研]、江川尚志[NEC], 丸山文宏 [富士通], 坂本静生[NEC]), 韓国、ロシア、イギリス、米国
 - (ウ) O-member: オーストラリア、ルクセンブルク

4. 議事概要

4.1 SC42 の内部構成の決定

SC42 の構成を下記とすることが決議された（N78 決議 3, 7, 8, 9）。

- WG1: Foundational Standards
コンビーナ: Mr. Paul Cotton (Canada)
既存 WI, AWI 22989 (用語) と AWI 23053 (フレームワーク) は本 WG が担当。
- SG1: Computational approaches and characteristics of artificial intelligence systems
コンビーナ: Dr. Tangli Liu (China)
- SG2: Trustworthiness
コンビーナ: Dr. David Filip (Ireland)
- SG3: Use cases and applications
コンビーナ: 丸山(日本、富士通)

(補足コメント)

中国が SG1 と SG3 のコンビーナに立候補していたが、水面下での議長あっせんを受けて日本が SG3 へ立候補し就任。コンビーナ職を1か国が2個取るのはよろしくないとの判断。

各国が出していたこれ以外の各種提案はいずれかの SG の議論テーマとされた。例えばフランスによる地域ごとの懸念を扱う SG 提案は SG2、中国によるクラウドでの AI のフレームワークという新 WI 提案は SG1、の議論項目の一つとされた。

4.2 societal concern の SC42 作業内容への組み込み申請

Societal concern は JTC1 ウラジオストック会合での SC42 設立決議では work program の一つとされていたが、ISO/TMB は決議 125/2017 で除外を条件として SC 設立を承認した。TMB の関心事は、そもそも Societal Concern が JTC1 のワークアイテムとしてふさわしいかどうかである。これを受け対応が議論され、「Societal Concern を除外とした決議の解除」を願う決議を作成、JTC1 総会に送付した（N78 決議 2）。

解除すべき理由は下記である。

- JTC1 は societal concern と深い関係を持つ「技術」を既に議論している（例えば SC39: sustainability, SC40: IT governance）
- AI での技術論を行う上で意識すべき societal concern が存在する（例えば algorithmic

bias)

4.3 WG9 (big data) の SC42 移管申請

WG9 (big data)は JTC1 ウラジオストック会合での SC42 設立決議では SC42 に移管することとされていたが、TMB は決議 125/2017 で移管しない事を条件として SC 設立を承認した。これを受け対応が議論され、移管を願う決議を作成、JTC1 総会に送付した (N78 決議 1)。

(なお本件は JTC1 N13722 により移管が開始された)

5. その他 (含む所感)

- 第 4 回会合 (2019 年秋) の SG42 会合の日本招致が内々に打診されている。要検討。
- 日本が SG3 コンビナーに立候補し就任した事を米国から大いに感謝された。
- Diab 議長の采配は見事であった。論点を常に明確にして議論の迷走を防止、ために会議は非常に速く進行。第 2 回以降は更に厳格にルールに基づいて運用する (例えば期限を過ぎた寄書は一切認めない) と宣言しており、今回以上に迷走を許さぬ進行となる見込み。

6. 今後の開催予定

SC42 第 2 回総会 2018/10/08 の週 米国 シリコンバレー (N78 決議 14)

(仮) SC42 第 3 回総会 2019/04/08 の週 アイルランド ダブリン (N78 決議 14)

—報告, 以上—

「所感」

① 中国の威勢の良さ :

参加登録者数は中国が最大で 23 名であったが、実際には会場の隅へ、テーブルを持たない状態で企業出身者等を中心とした若手が座っており、30 名は優に超えていると感じた。初日の集合写真の人数が 90 名を超えているが、これに加えて、初日午後から参加者が増えていた。

若いころから国際会議へ出席させ、種々学ばせる狙いだろうが、10 年後にこれが確実に効いてくるだろう。総会ではプロトコルに慣れていないためか、時々、発言の機会を失う場面も見られ、気の毒に思える場面もかなりあったが、順次学習を積み力をつけるのだと思う。良きパートナーとして関係を築いていきたい。

② 日本は一定の信頼を得ている :

SG3 の調整でも議長から依頼があったように、日本は一定の信頼を当初から得ていると感じた。これは、JTC1 でのこれまでの信頼に値する活動の蓄積が効いているためと感じた。